

早稲田大学正門前整備計画 小野梓記念館、大隈記念タワー

設計：早稲田大学正門前整備計画設計室（代表 戸沼幸市）

D+T
|
BE

小野梓記念館 北東面外観



大隈記念タワー 北西面全景 右は小野梓記念館

■建築概要

名称：小野梓記念館
所在地：東京都新宿区戸塚1-103-3
敷地面積：2,337.51m²
建築面積：1,415.85m²
延床面積：8,571.36m²
規模：地下3階、地上4階
構造：SRC造、一部S造
工期：2003.6～2005.1
設計監理：早稲田大学正門前整備計画設計室（代表 戸沼幸市）
総合監理：早稲田大学総合企画部施設課
施工：前田・りんかい日産・佐藤・西武建設共同企業体
●INAX使用商品●FC-11Z/OM-1937-72、YT-100/C041R-80

名称：大隈記念タワー
所在地：東京都新宿区早稲田鶴巻町516
敷地面積：1,388.82m²
建築面積：383.13m²
延床面積：7,175.61m²
規模：地下2階、地上18階
構造：地上S造（CFT造）、地下SRC造
工期：2004.4～2006.1
設計監理：早稲田大学正門前整備計画設計室（代表 戸沼幸市）
総合監理：早稲田大学総合企画部施設課
施工：前田・りんかい日産・佐藤・西武建設共同企業体
●INAX使用商品●YM-355/S046Z-0893M+MG



大隈記念タワー（右）と大隈講堂

Design + Technique

Best Equipment

早稲田大学正門前整備計画 設計の主旨

戸沼幸市
KOICHI TONUMA

早稲田大学は創立125周年(2007年)の節目にグローバル[*]・ユニバーシティを標榜しつつ、「第2世紀の早稲田」へと力強く飛翔しようとしている。これに呼応して、大学が周辺商店街と一体となり活気あふれる早稲田界隈づくり、いわば新しい早稲田大学カルチャータン——大学町の創出を目指して、今回の正門前整備計画を行った。

「小野梓記念館」と「大隈記念タワー」は大学の歴史的建造物である「大隈講堂」

(1927)、「旧図書館(現・會津八一記念博物館)」(1925)を含む早稲田大学の歴史的建築群の景観を継承しつつ、時代の要請を受け止めてキャンパスの新しい展開、再創造の形姿を求めたものである。

早稲田大学の創立者、大隈重信の意を体して大学づくりの実務を担った小野梓の名を冠した小野梓記念館は、地下に社会との交流の広場となる「小野記念講堂」を持っている。2、3、4階は法科大学院の学習空間である。天空に抜ける中庭には天と地、歴史と未来をつなぐ東洋小野梓の胸像が置かれ、大隈講堂と向き合っている。

大隈記念タワーは250尺(75.75m)の塔である。125尺の大隈講堂の時計塔が大学の125年の歴史、すなわち「第1世紀の早稲田」の象徴であった。250尺の塔には、125年の歴史を踏みしめる「125記念室」を10階に設定し、次の

125年に向かう「第2世紀の早稲田」の姿を象徴させている。地下階には多目的講義室、マルチメディア実習室、1階はカシオペアの天蓋を持つエントランスホール、2階は堤康次郎記念ラウンジ、上階は教室、演習室、学生自習室、会議室、公共経営研究科研究室などが配置されている。

塔頂250尺に稲魂を穿っている大隈記念タワーは、四周に開かれており、利用者はそれぞれに眺めを楽しむことができるが、特に10階、125記念室は大隈講堂が求めた125尺の視点場であり、大学全体の景観を安定した視点で展望することができる。15、16階は東京の景観を広く眺望しつつ、晴れた日にはその背景に秩父連山、富士山、そして筑波山までも眺望することができる。

□小野梓記念館の外観、外壁について

小野梓記念館の外観は大隈講堂、旧図書館、1号館など歴史的建築物、及び町並みと調和するように高さ地上4階までに抑えている。

地上レベルの1階は町が入り込むように通り抜け通路やピロティとし、2、3階は4面音楽で焼いた土系のきっちりとしたタイル張りの壁面、そして4階は緑青銅板の腰折れ屋根で包み込む3層構造の外観となっている。

蔵のような雰囲気を示す壁面のタイルは、焦げ茶色で細い斜線の入った磁器スクラッチタイル(75×190×13mm)である。濃淡のあるこのスクラッチタイルは、外の光の調子によって微妙に表情を変え、きめ細かい質感を漂わせている。

建物が地上に接する1階は、ピロティに沿ってガラス面のギャラリーがあり、キャンパスや人々の行き交う姿を映し出している。ピロティと外壁との境には、やや黄味の入ったテラコッタを横一文字に張って軒とした。この横線は大隈記念タワーの垂直性を強調する意味もある。

小野梓記念館には地下1階から4階までの5層吹抜けの真四角な空間が設定されている。これは校舎内部へ自然光や外気を採り入れる役目を持つが、合わせてさまざまなイベントにも活用できるように考えた。吹抜け空間の内壁はガラス窓と乳白色の磁器タイルの壁面としているが、この壁面に床の素材の色(土系)、屋根の緑青色、青空の様子を映し込む万華鏡ともなって面白い。

□小野梓記念館の水まわり空間について

敷地に合わせた変形プランの中で、トイレブースや通路の使いやすい寸法の確保、無駄のない機器のレイアウトなどの工夫が求められた。男子トイレは壁掛け式の小便器や、汚垂れ石の採用で掃除をやすくし、ライニング膳板の奥行きを少し大きくすることで荷物置きスペースを確保している。防犯上の配慮から、ブース扉は床との隙間を10mmとし、女子トイレでは天井までのブース隔壁を設けている。機器類や壁のタイルはオフホワイトに統一し、ブースの色をインテリアのアクセントにしている。

□大隈記念タワーの外観、外壁について

大隈記念タワーの外観は、土系磁器タイル(柱型、壁、腰壁)、金属(W模様の屋根、スチールダンパー、窓枠アルミサッシ、窓台)といった材料によって構成されている。

外壁のPC打ち込みの磁器タイル(50×150×7mm)は、建設時(昭和2年)の大隈講堂の茶系の外壁タイル(スクラッチタイル)の色合いを再現した。採用した茶系のタイルは、大まかには濃淡が3種類だが、ピースの1枚1枚、皆異なっており、人工的というよりも自然の質感が出ており、近景を柔らかくしてくれている。大隈講堂70年余りのエイジングしたスクラッチタイルの貫禄と、新品の初々しさとのコントラストが



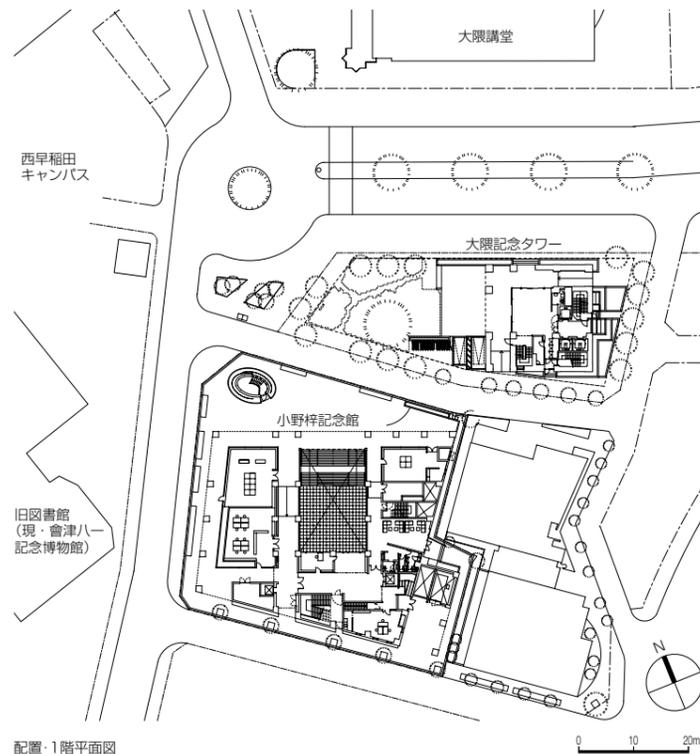
小野梓記念館 北西面壁面ディテール

表現されたように思っている。

タワー設計の中心課題は、単純な正四角形の塔をいかにすっきりと垂直に250尺まで立ち上げるかであった。外側12本の柱型は垂直方向にそのままに現し、壁面は横縞のパネルにして張り上げた。タワーはほぼ20mの四角の筒型、東南の角250尺を最高高さとし、西北に向かって傾斜した屋根を持つが、東西南北の4面は皆、表情が異なっている。

タワーの柱を横につなぐ腰壁は、北、西面で少し傾斜させている。このため日光の当たり方によって建物に陰影、彫りのある表情が現れている。同様な意図から、北、西面の開口部の窓台、滑に金属板を用いているが、これは大隈講堂の黄

小野梓記念館 屋外広場見上げ



小野梓記念館 地下2階トイレ



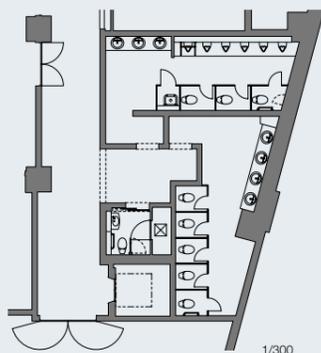
女子トイレ ●INAX使用商品●洗面器：L-2291、水栓金具：AM-91（100V）、水石けん入れ：KF-24DL



男子トイレ ●INAX使用商品●洗面器：L-2291、水栓金具：AM-91（100V）、水石けん入れ：KF-24DL



多目的トイレ ●INAX使用商品●大便器：BC-950SK, DV-155B、紙巻器：CF-32H



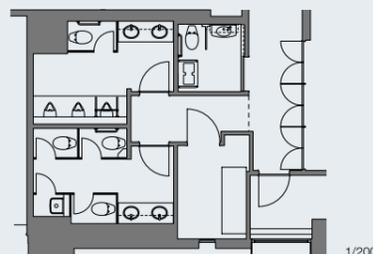
大隈記念タワー 15階トイレ



女子トイレ ●INAX使用商品●洗面器：L-2291、水栓金具：AM-91（100V）、水石けん入れ：KF-24DL



男子トイレ ●INAX使用商品●小便器：AWU-506RP



大隈記念タワー 北西面見上げ



大隈記念タワー 1階エントランス横

味がかったテラコッタで化粧されている軒と対比させることを狙ったものである。

滑は外壁の茶系の磁器タイルの色を反射して時にテラコッタ風に見えなくもない。滑は西日の強い時にルーバーとなり、足元の開口部を開ければ涼風を呼び込むことができる。

タワー北側のピロティの内側の壁面は、早稲田の稲の甲骨文「禾」を写し取った、素焼きの陶板（30×45cm）を張り込んでいる。これは早稲田大学のアイデンティティの源である稲文化とのつながりを想起してもらいたい、という設計者の願いを込めたものであり、塔頂の稲魂など、あちこちにこの形を応用している。玄関天井には対比的に12カ月のカシオペア（W）の運行を示した天蓋を設えているが、グローバル（World、宇宙のW）とローカル（稲）を対比させて、早稲田大学のアイデンティティを形象化することを試みたものである。

なお、小野梓記念館、大隈記念タワーの床面は、それぞれの前庭、中庭とともに、早稲田大学の立地する大地につながったものとして捉え、土系の磁器タイルを採用した。2つの建物の前庭には、クスノキやミヨウガが植えられ、ひと続きとなり、これがまた町やキャンパスの既存の広場や庭園と連続し、大学町の新し

い広場として活気づいている。

□大隈記念タワーの水まわり空間について

1辺約20mの正四角形。この平面計画の課題は、コアを最少にして教室空間を最大に取ることだった。地下1階、地上2、10、15、16階のトイレスペースは男子、女子、及び多目的トイレを設置し、他の教室階のトイレスペースは小スペースで、隔階に男子、女子を分けて配置した。従って、全階でトイレスペースの形状が異なっている。

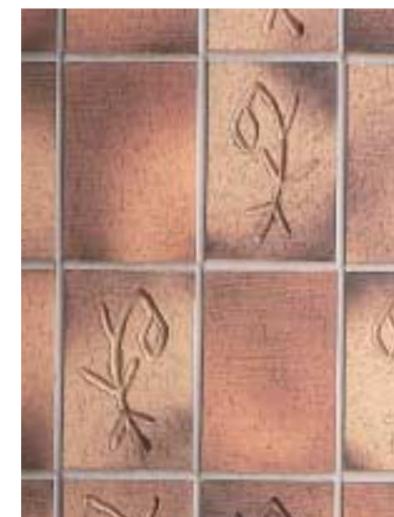
階段室に隣接することにより避難階段を有効に活用した。内装は清潔感のあるホワイト色でまとめ、壁面の一部にタイル模様張りを施し、アクセントを付けている。*

【*】グローバル：グローバル＋ローカルの造語

とぬま・こういち—早稲田大学 名誉教授、同大学理工学総合研究センター 顧問研究員／1933年生まれ。1966年、早稲田大学大学院理工学研究科建設工学専攻博士課程修了、工学博士。1977～2004年、同大学理工学部教授。この間、同大学専門学校校長、同大学都市・地域研究所長、同大学芸術学校校長などを歴任。

主な著書：『人間尺度論』（彰国社 1978）、『遷都論—21世紀国家への脱皮のために』（ぎょうせい 1988）、『21世紀の日本のかたち—生命の網の目社会をはくくむ』（彰国社 2004）他多数。

主な作品：中新田町西町「花楽小路（からくこうじ）」商店街整備（1986）、中新田町立鳴瀬小学校（1988）、日本海拠点館あじがさわ（1997）など。



大隈記念タワー 甲骨文「禾」を写し取った素焼きの陶板



大隈記念タワー 1階エントランス